



はやね はやおき 朝ごはん テレビを止めて外遊び

# 三角帆

<あいさつ えがお おもいやり>

令和元年度  
別海町立野付小学校  
学校だより No.9  
令和元年11月29日  
発行責任者  
校長 奥村 繁義

## 子どもは遊びの天才

日本海側では毎日のように降雪の様子が報道され、同じ北海道でも冬への歩みの違いはありますが、朝夕の冷え込みが一段と厳しくなり、着実に冬の始まりを感じるようになってまいりました。休み時間には、寒い中でも外で楽しそうに遊ぶ子どもたちが、「手が冷たい」「汗かいた」と笑顔いっぱい元気な様子で過ごしています。明後日から12月に入り、学校では2学期も残すところあと3週間程になりました。

休み時間になると、子どもたちは体育館やグラウンドでボールぶつけやサッカーを楽しんでいました。また、ブランコ、シーソーや鉄棒などの遊具での遊びも人気の高い遊びでした。しかし、体育館は改修工事のため約1ヶ月間使用ができなくなり、そして、グラウンドもぬかるむためしばらく使用禁止、遊具も冬季間使用禁止となりました。そんな中、ちょっとした工夫で遊び方を考えながら子どもたちは楽しい休み時間を過ごしています。校舎前の芝生では、学年単位でいろいろな鬼ごっこ、コモンスペースでは、将棋盤や囲碁盤を坂にしてオセロのコマを転がしてゴールを目指す遊びやドミノ、ブロック遊びなど異学年の子どもたちが入り混じって楽しく遊んでいます。そんな姿を見ると、「子どもは遊びの天才」だと感心させられます。時には、意見の違いで言い合いになったり、プチトラブルになったりすることもあります。ある程度のルールを作りながら、自分たちで作り上げた遊びを楽しんでいます。来週からは、新しくきれいになった体育館で思いっきり遊べますし、もうすぐ雪が積もれば、雪遊びを楽しめます。遊びの天才たちは、どんな遊びを考え出すか楽しみに見守りたいと思います。



芝生での鬼ごっこ



コモンスペースでの工夫した遊び

休み時間以外にも、低学年の生活科で2年生が作った「おもちゃランド」に1年生が招待されて楽しく遊んでいました。それを受けて、1年生は幼稚園の年長さんを招待して「秋のたからものランド」と称して、ものづくりを教えてあげていました。喜ぶ幼稚園児を見て、1年生は達成感や充実感を味わい、次への意欲ややる気につながっているようでした。子どもたちは遊びによって、運動スキル・思考力・言語力・自制心・想像力・社会性などのようなスキルや能力を学んでいます。そのすごいところは、こうしたスキルや能力を大人の指導によって学ぶのではなく、自発的に楽しみながら身に付けてしまえることです。

年上の子が、年下の子に遊びやものづくりを教えてあげたり、面倒を見てあげたりする経験は大変貴重です。そして、その年下の子がさらに下の子に教えてあげたり、面倒を見てあげたりして次々に受け継がれていくのです。このことを通して、すべての子どもたちが、より楽しく学校生活を過ごし、健やかな成長につながっていくことを願っています。

校長 奥村 繁義